

京都大学医学部を卒業、泌尿器科医としてスタートして以来、私は常に医療現場に立ってきました。担当した患者さんは、ほとんどが男性ですが、包茎から ED、男性不妊症、男性更年期、性感染症、前立腺がんなど実に幅広く、多岐にわたっています。男性医学の専門医をめざし、ありとあらゆる症例の診療を手がけてきた私が常々考えていたのは、「日本の医療には婦人科があるのだから、男性科もあって当然」という思いでした。最近になって、東京大学付属病院など関東のごく壺の大学病院に「男性科」が設置され、私の思いも実現化つつありますが、ことクリニックに関してはまだ皆無といってもいい状態です。

2014（平成 26）年 7 月に「北村クリニック」を開業した私の念願は、「男性科」の看板を掲げることでしたが、クリニックではまだ認められず、現在の診療科名にとどめざるをえませんでした。

美容系や皮膚科系のクリニックで、ヒアルロン酸注射が非常に高額な費用で行われているという噂は、前から耳に入っていました。この本を書くにあたって実情を知りたいと思い、仕入れ業者さんに卸値を確認したのですが、「**2・5 $\infty$ 入りのアンプル 10 本で 287 4 円**」という回答です。それが治療現場では実に「1cc5 万～6 万」。

濃度などに多少の差があるにしても、原価に比べるとかなり高額なことに呆然としてしまいました。

#### 不妊症 「新婚カップル 8 組に 1 組」

しかし現在のところ、**不妊の原因は「男女半々」**ということがわかっているのです。

私は研修医時代からずっと、不妊治療の現場に立ってきましたが、その経験からすると、「半々どころか、**男性側に 6 割の原因**」というのが実感です。

あとで述べますが、男性不妊症にはさまざまな検査があります。そのなかで一番大事なのが「**精液検査**」です。これによって、男性不妊症かどうかが確実にわかります。

精液検査の結果判断について、WHO 基坤（2018 年時＝次ページの表）では、精子濃度 1500 万/ml 未満は「**乏精子症**」、運動率 40% 未満は「**無力精子症**」とされています。**乏精子症は精子の数が少ない、無力精子症は精子の運動が悪いことを意味します。ただし、この基準はあくまで最低限のレベルと考えるべきです。この数値を満たしているから容易に自然妊娠できるとは言い切れません。**

乏精子症や無力精子症はおよそ **80 人に 1 人の割合**でいます。

無精子症の原因としては、生まれつきの場合もありますが、二次的なものもあり、精巣上体炎による精子の閉塞や、抗がん剤や放射線治療などの後遺症で精子がつかられなくなる場合もあります。

無精子症の治療はかなり難しく、症例によって治るものもあれば、治らないものもあるというのが実情です。しかし、いま挙げたような事例もあるので、最初から諦めることはないと思いますし、可能性のある限り、医師として私も全力でサポートします。

この**ブライダルチェック**というのは、いわば婚前診断、結婚前に男性が自分自身やパートナーの安心のために精液検査を受けるもの。

みなさんは「うまずめ」という言葉をご存知でしょうか？ 「石女」あるいは「不生女」と書き、江戸時代以前からあった言葉です。子供を出産できない妻をそう呼び、責めていました。責められる妻は耐えがたく、「うまずめ地獄」という言葉もあったそうです。

嫁いで3年経っても子供ができなければ離縁されてもしかたない、そんなあまりに差別的な“常識”が、明治時代はおろか、昭和の戦前までまかり通っていたのです。

日本は、不妊治療を行っている医療機関の数は世界でもトップクラスです。それなのに、「日本女性の妊娠率は、世界で最低に近い」というデータがあります。驚きですよね？  
これはいったいなぜでしょうか。

答えは簡単です。真摯に不妊治療を行う病院やクリニックがある一方で、ただ**漫然と、的外れな治療を繰り返しているところもたくさんある**からです。医療機関によって意識や技術の差にかなりの開きがあるというのが実情です。極端に言えば、少年野球とプロ野球ほどの違いがあるのです。

自然妊娠率は30歳ごろから徐々に低下し、**45歳ではわずか1%ほど**になってしまいます。大きな原因は**卵子の老化**ですが、この45歳という年齢は、実は男性にとっても大きな節目なのです。

個人差はありますが、45歳ごろから精子もまた老化・劣化していきます。

**インポテンツ**は、

いわば「性不能」です。たとえば前立腺がんの手術や脊髄損傷などの外傷によって、陰茎につながる神経や血管が切れてしまい、**勃起不能**になった状態です。そのため**性行為がまったくできません**。EDが治療によって治る病気であるのに対し、インポテンツは非常に治りにくい疾患ともいえます。

人間の体は正直なもので、**使わない臓器や能力は次第に劣化**していきます。勃起能力も同じです。使わないと、ますます血液の流れが悪くなり、EDの症状も重度化していきます。

ED治療薬として、現在日本で認可されている薬は4種類あります。

・シアリス（アメリカ・イーライリリー社）

世界で人気のある最新薬剤です。作用時間が長いのが特徴です。勃起能力を高めるだけでなく、定期的に服薬することで陰茎動脈の血流改善など、治療効果の可能性もあります。

・レビトラ（ドイツ・バイエル社）

これも人気が高い薬です。とくに即効性に優れた切れ味の鋭い薬剤といえます。

・バイアグラ（アメリカ・ファイザー社）

最初に開発されたED治療薬として、世界中で知られています。新薬に主役を奪われた感がありますが、知名度は一番。効果も安定していますが、食べ物やお酒の影響で効果が薄れる弱点もあります。

・シルデナフィル

いわばバイアグラのジェネリック医薬品で、国内外多数のメーカーの製品です。製造コストが削減されているため安く、価格重視の方に人気です。効果はバイアグラと似ています。

「精液に血液が混ざる」場合は血精液症、前立腺炎、前立腺がんなど、「精液の色が黄色い感じ」は前立腺炎、尿路感染症などです。これについては、疑われる疾患の検査が必要になります。

勃起し、普通に挿入できるのに女性の膈内で射精できない。そういう症例を「膈内射精障害」と呼びますが、このタイプの患者さんが近年、ずいぶん多くなっています。

・・・

知り合いの年配のオジサンにその話をしたところ、「えっ？ そんなアホなやつがおらんかいな。気持ちよくなったら、自然に射精するのが男いうもんや」と驚き、呆れていました。その通りですが、障害をもつ人はアホなんかではありません。オジサンの言う「気持ちよくなる」ことが普通にできないのです。

先輩は熱烈な恋愛の末に結婚したのですが、結婚前の数年間、よくラブホテルを利用していたそうです。互いに愛し合っていますから、ベッドも情熱的です。それはいいのですが、彼女がオーガズムに達するまさにその直前、彼は我慢できずに射精してしまうのです。

妊娠を避けるため、膣外射精です。

「ゴメン言うて、オレは謝るんやけど、向こうにしたら、急にハシゴ外されたようなもんや。怒り狂うて、『近所のオッサンでも誰でも呼んできて！』……。オレはひたすらうなだれてるだけ、情けないでえ」

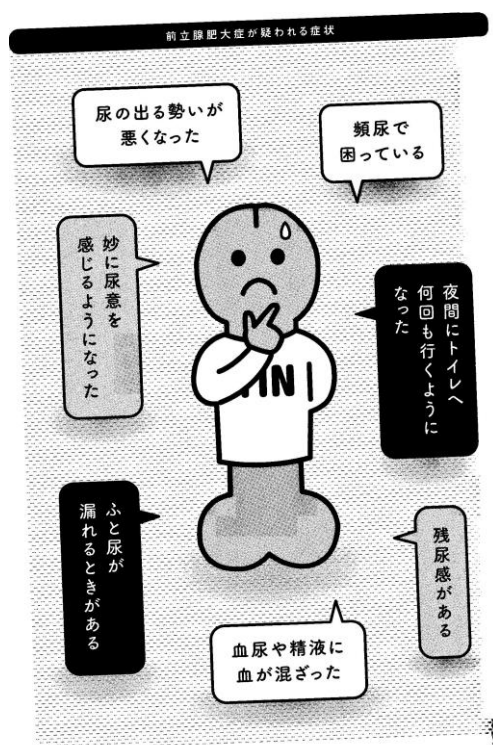
うつ病の治療には、精神安定剤や睡眠薬などの**向精神薬**が使われます。これらは効果が証明されていますが、一方で**副作用**があり、**依存性**もあります。より強い薬を求めたり、服用量が増えたりするのです。

スクワット運動は、非常に効果的です。

ここまで本書を読んでこられた皆さんのなかには、泌尿器科というのは、男性の性的な病気やトラブルを専門領域にしている医療機関、そう思われている方もおられるかもしれませんが、しかし、そうではありません。もちろん、男性生殖器の問題も大事な診療科目ですが、泌尿器つまり尿に関する領域が基本なのです。

泌尿器とは尿をつくり排出する器官の総称で、左右の腎臓・尿管・膀胱及び尿道からなっています。これらのどれかに異常が生じると、排尿のトラブルになって現れます。

「前立腺肥大症」は男性特有の疾患ですが、潜在的な患者さんまで含めると、**60歳以上の半数が発病**していると見られています。



健康な成人の場合、一日の排尿の回数として教科書的には**8回～10回が目安**とされており、これを超えると頻尿となります。また、尿の量については、一日に0・8～1・5リットルであり、これを大きく超える場合を多尿、逆に少ない場合を乏尿と呼びます。

#### ・頻尿

これには夜間頻尿と日中頻尿があります。まず夜間頻尿ですが、もともと就寝中に1回も尿意を感じて起きることがなかった人が1回起きようになる、1回程度だった人が複数回起きようになる、そんな場合がありますが、目安として**3回以上起きようになれば、夜間頻尿**といえるでしょう。

#### ・尿失禁（尿漏れ）

あるおむつメーカーの調査（出典・山西友典監修『尿トレ』方丈社刊）によると、尿漏れのある人は40代の女性で約30パーセント、男性で約23パーセントというデータが出ています。これが50代では女性約38パーセント、男性約26パーセントとなっています。つまり、**40代から50代にかけて3人に1人が尿漏れ**という調査結果ですが、**泌尿器科の現場から見ても、ほぼ実情に近い数字**だろうと思います。

#### 前立腺がん

検査は血液検査で、腫瘍マーカー（PSA）の値で診断します。

#### 尿管結石、尿道結石

痛みが強いため疝痛(せんつう)発作という

#### ●ペニスが折れる

「あそこが折れた！」と、痛みに顔をゆがめながら駆け込んでくる患者さんがいます。ペニスは海綿体できており、丈夫な膜に包まれていて血液が充満する風船のようなものです。そこに無理に外力が加わると、**パキッと音がして折れることがあります。**

騎乗位とか肛門性交とか、無理な体位で性行為をしたときなどに起こったりします。内出血によってペニスが紫色に腫れ上がった状態ですから、一時的に阻血し、風船が裂けている部分を縫合するなどの処置を行います。

#### ●尿道異物

これは自慰行為のときに起こる緊急事態です。アナルセックスでハイヒールをお尻に入れるのと同じように、自分の尿道に物を突っ込むことを好む人もいます。入れているうちにずっと奥まで入り込み、なにかの拍子で膀胱まで行ってしまい、取り出せなくなることもあります。

こうなると、内視鏡で摘出しなければいけません。余談めきますが、取り出したこちら

が首をひねることもあります。ハンダ付けの職人さんなのでしょうか、ハンダ用の銅線が出てきたり、ふやけた大量の乾麺が出てきたりします。危険な事例として、体温計を入れて取れなくなった女性患者さんもいます。体温計には水銀が含まれており、内視鏡でも取れないので、緊急に開腹手術を行った例もあると聞きます。

性的嗜好は人さまざま、とやかく言うことではないでしょうが、危ないものをむやみに尿道に入れたりしないことですね。

#### ●陰茎絞扼(こうやく)

難しい名称ですが、これも自慰行為の折りに起こる症状のひとつです。金属の輪などをペニスにはめて自慰をしているうち、腫れてきて輪が取れなくなったりします。

そうなると、血流が止まって際限なく腫れてきます。激痛もともないますので、これまた緊急処置が必要です。